

〈森の色いろ動物園〉

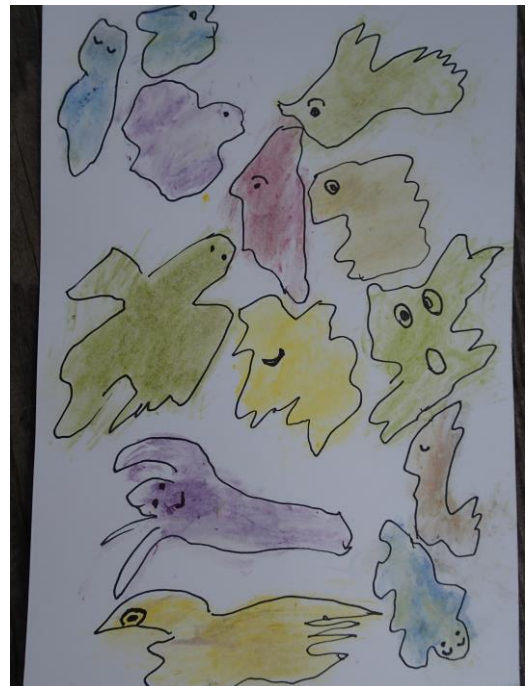
風薫る5月、暖かな陽気にくすぐられ畑や道端に色が溢れだす。この色をいただいてちょいと遊んでみる。5,6年前だろうか、ハガキ大の紙にタンポポの花をこすりつけたらきれいな黄色に染まった。面白くなって色んなものをこすりつけてみると、見た目とは違った色や見た目以上に鮮やかな色が出てきて楽しくなった。せっかく色が付いた紙、そのままでは味気ないので周りをペンで囲って目を描いてみる。すると、見たこともない生き物が見えてきて紙面は動物でいっぱいになる。以来、〈森の色いろ動物園〉と命名してネイチャーゲーム仲間にも紹介しあちこちで実践している。絵を描くのに苦手意識を持っていたが、これなら楽しいし、旨いも下手もない。子どもでも十分楽しめる。



①花や葉を適当に紙にこすりつけ色を付ける。

②色を付けたらペンで縁取りする。

③適当な場所に目を描く。



カタバミは見た目通り鮮やかな黄色に染まる。赤ジソの葉は濃い紫色に、青ジソはくすんだ緑に。パセリは本物よりも鮮やかな緑になった。オオイヌノフグリの小さな花は、鮮やかなブルーに。大きく育ったヨモギは濃いめの緑に。ピンク色のアカバナユウゲショウはピンクにならず薄紫に。カラスノエンドウは同じピンクだが濃い紫になった。予想が大きく外れたのはジャガイモの花。花は薄紫だが付いた色は茶色に近い色。とっても不思議だった。こんな風にいろんな草や花をこすりつけただけで楽しい色遊びができるし、自然の妙が味わえる。季節を変えてまた遊んでみようと思う。